

平成 21 年度

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

東部・西部施設事業概要



光 和 寮
(障害者支援施設)

ガイドネットあいさぽーと
かわな・やすだ
デイサービスセンター クリエイト川名

港ワークキャンパス
(多機能型事業所)
み な と

明 和 寮
(障害者支援施設)

みなとガイドネット
黎明荘・あかり
港区障害者地域生活支援センター
地域活動支援センター **あちゅっとほーむ**
わくわくキッズ

就労移行支援事業<名古屋東ジョブトレーニングセンター>
就労継続支援事業 B 型
生活介護事業
施設入所支援
居宅介護等・移動支援事業
福祉ホーム
地域活動支援事業

就労継続支援事業 A 型<ライトハウス名古屋金属工場>
就労継続支援事業 B 型<KAN 食品開発センター>
福祉ホーム

就労移行支援事業<港ジョブトレーニングセンター>
就労継続支援事業 B 型<ビーサポート>
生活介護事業<ぶちとまと>
施設入所支援
居宅介護等・移動支援事業
福祉ホーム
指定(委託)相談支援事業<Kiraらぽーと>
地域活動支援事業
児童デイサービス

はじめに

当法人の運営する3社会就労センターでは、平成20年1月に障害者自立支援法への移行が完了してから2年余りが過ぎ、事業の成果や課題を見出すことができた1年であったと言える。昨年から引き続き影響を及ぼしている不景気波及はあるものの、生活介護事業や就労移行支援事業などの新しい事業体系のチャレンジやレトルト加工、蒟蒻製品加工など新しい業種のチャレンジなど、全体的には明るく前向きな姿勢での積極的な事業展開をしてきた。また、今年度より報酬単価・加算の見直しがあり、活動収支差額の改善が図られたことも運営にとってはとても大きな要因となったといえるものである。

光和寮では、年度当初に地域活動支援事業「デイサービスセンター クリエイト川名」を光和寮生活介護事業から分化する形で立ち上げ、障がい特性に応じたサービス提供体制を整えると共に、光和寮施設入所支援事業の一部を福祉ホーム化し、新法への対応と地域生活への移行を積極的に行った。また、愛知県基盤整備事業による作業棟増築が完了し、就労移行支援事業及び就労継続支援事業B型の作業訓練室が拡大され、各事業の活性化を図っているところである。

明和寮の施設入所支援では、入所者の障がいの重度化、高齢化が進んでおり個別の対応が増えていると共に、高齢者施設や療護施設等への進路に関する支援に重点を置き利用者に不安感を抱かせることのない取り組みを行ってきた。就労移行支援事業は7名の就職実績を上げ、更なる企業開拓、福祉事業関連・行政等との連携を強化するように努めて行きたいと考えている。相談支援事業は、事務所をより港区役所に近い場所に移転させ、短期契約ではあるが緊急雇用創出事業による職員1名の体制強化を行い、更なる利用者サービス向上に努めてきた。

港ワークキャンパスでは、A型事業である製缶事業の回復の足取りは重く、上昇の気配は見えない状況ではあるが、従業員の就業時間の短縮、正職員の削減、製品在庫率を抑える等の施策を講じ、採算ベースに近づくよう努力しているところである。また、B型事業では、家賃の削減、顧問契約の解除等により4年目にして初めての単年度黒字を達成した。その他、永年の課題であった施設トイレの洋式化、福祉ホーム居室床のフローリング化を愛知県障害者自立支援基盤事業の助成を受け実施し、利用者満足度向上に努めてきた。

本概要は、平成21年度の3社会就労センター事業活動をまとめたものです。今後も、障害福祉向上の為に一層の努力をして参りたいと思いますので、皆様にご一読いただき、忌憚のないご意見、ご助言、ご指導をいただきますようお願いいたします。

目 次

はじめに

I	施設のあらまし	1
1.	施設の規模	
2.	定 員	
3.	職 員 数	
4.	法人組織図	
II	施設利用者概要 ～利用者の現状～	7
1.	光和寮	
2.	ガイドネットあいさぽーと	
3.	かわな	
4.	やすだ	
5.	デイサービスセンター クリエイト川名	
6.	港ワークキャンパス	
7.	みなと	
8.	明和寮	
9.	みなとガイドネット	
10.	黎明荘	
11.	あかり	
12.	港区障害者地域生活支援センター	
13.	地域活動支援センター あちえつとほーむ	
14.	わくわくキッズ	
III	就労活動の概要	15
1.	光和寮	
	(1) 就労時間 (2) 年間売り上げの推移 (3) 平均工賃の推移	
2.	港ワークキャンパス	
	(1) 就労時間 (2) 年間売り上げの推移 (3) 平均工賃の推移	
3.	明和寮	
	(1) 就労時間 (2) 年間売り上げの推移 (3) 平均工賃の推移	

IV 各事業所の状況	17
1. 光和寮	
2. ガイドネットあいさぽーと	
3. かわな	
4. やすだ	
5. デイサービスセンター クリエイト川名	
6. 港ワークキャンパス	
7. みなと	
8. 明和寮	
9. みなとガイドネット	
10. 黎明荘・あかり	
11. 港区障害者地域生活支援センター	
12. 地域活動支援センター あちえつとほ一む	
13. わくわくキッズ	
V QMS活動報告	36
VI その他の活動について	38
1. 東部施設	
2. 西部施設	
VII 名古屋ライトハウスの沿革	40

I 施設のあらまし

1. 施設の規模

東部施設

	敷地面積	建 物 面 積		
		管理・生活部門	作業部門	合 計
光和寮	1,802.35 m ²	1,358.15 m ²	1,456.99 m ²	2,815.14 m ²
クリエイト川名	光和寮敷地内	79.11 m ²	—	79.11 m ²
かわな	316.50 m ²	623.78 m ²	—	623.78 m ²
やすだ	光和寮敷地内	307.44 m ²	—	307.44 m ²
あいさぽーと	光和寮敷地内	光和寮事務所内	—	—

西部施設

		敷地面積	建 物 面 積		
			管理・生活部門	作業・倉庫部門	合 計
港ワーク キャンパス	入居棟・作業棟	2,941 m ² (市有地)	1,121.41 m ²	3,665.94 m ²	4,787.35 m ²
	第二工場	330.57 m ²	—	280.24 m ²	280.24 m ²
	寛政町倉庫	556.59 m ²	—	318.96 m ²	318.96 m ²
み な と	港ワーク敷地内		和室 14.58 m ² 洋室 16.56 m ²	—	—
明 和 寮	7,068 m ² (市有地)		2,867.59 m ²	1,279.60 m ²	4,147.19 m ²
みなとガイドネット	明和寮敷地内		43.92 m ²	—	—
黎明荘	明和寮敷地内		291.60 m ²	—	—
あ かり	明和寮敷地内		和室 20.00 m ² 洋室 20.00 m ²	—	—
港区障害者地域生活支援センター	賃貸物件		—	(6月より)	55.43 m ²
あちえつとほーむ	賃貸物件		—	(6月より)	113.11 m ²
わくわくキッズ	(2事業同一敷地)		—	(6月より)	81.86 m ²

2. 定員

光和寮

- 就労移行支援事業<名古屋東ジョブトレーニングセンター> 18名
- 就労継続支援事業B型 80名
- 生活介護事業 20名
- 施設入所支援 (17室) 32名

かわな

- 福祉ホーム (内世帯用居室1戸) 15名

やすだ

- 福祉ホーム 11名

デイサービスセンター クリエイト川名

- 地域活動支援事業 19名

港ワークキャンパス

- 就労継続支援事業A型<ライトハウス名古屋金属工場> 60名
- 就労継続支援事業B型<KAN食品開発センター> 20名

みなと

- 福祉ホーム (20戸) 20名

明和寮

- 就労移行支援事業<港ジョブトレーニングセンター> 15名
- 就労継続支援事業B型<ビーサポート> 100名
- 生活介護事業<ぷちとまと> 20名
- 施設入所支援 (23室) 40名

黎明荘

- 福祉ホーム (5戸) 10名

あかり

- 福祉ホーム (17戸) 20名

地域活動支援センター あちえつとほーむ

- 地域活動支援事業 19名

わくわくキッズ

- 児童デイサービス 10名

3. 職員数 単位はすべて（人）

光和寮

	管理者	サービス 管理責任者	職業指導員	生活支援員	就労支援員	看護師	栄養士	調理員	その他	常勤換算 職員数計
就労移行支援事業		1	2	1	1	—	—	—	—	4.2
就労継続支援事業B型	1	1	10	5	—	—	—	—	—	12.4
生活介護事業		1	—	4	—	1	—	—	地域生活推進員 1	5.2
施設入所支援		—	—	—	—	—	1	—	地域生活推進員 2	3

ガイドネットあいさぽーと

	管理者	サービス 提供責任者	登録 ヘルパー	常勤換算 職員数計
居宅介護等・移動支援事業	1	1	18	1

デイサービスセンター クリエイト川名

	管理者	生活支援員	常勤換算 職員数計
地域活動支援事業		6	3.3

かわな

	管理者	生活支援員	調理員	常勤換算 職員数計
福祉ホーム		2	1	2.7

やすだ

	管理者	生活支援員	調理員	常勤換算 職員数計
福祉ホーム		2	1	3

港ワークキャンパス

	管理者	サービス 管理責任者	職業指導員	生活支援員	就労支援員	看護師	栄養士	調理員	その他	常勤換算 職員数計
就労継続支援事業A型	1	1	10	1	—	—	—	2	4	17.3
就労継続支援事業B型		1	4	1	—	—	—	—	1	6

みなと

	管理者	生活支援員	調理員	常勤換算 職員数計
福祉ホーム	ワーク兼務	4	1	4.5

明和寮

	管理者	サービス 管理責任者	職業指導員	生活支援員	就労支援員	看護師	栄養士	調理員	その他	常勤換算 職員数計
就労移行支援事業		1	1	6	1	—	—	—	—	6.8
就労継続支援事業B型	1	1	19	2	—	1	—	—	—	17.5
生活介護事業		1	—	5	—	1	—	—	—	5.4
施設入所支援		0	—	2	—	2	1	—	地域生活推進員 3	6.8

みなとガイドネット

	管理者	サービス 提供責任者	常勤 ヘルパー	登録 ヘルパー	常勤換算 職員数計
居宅介護等・移動支援事業	1	2	1	29	3.2

黎明荘

	管理者	生活支援員	調理員	常勤換算 職員数計
福祉ホーム	明和寮兼務	1	1	2

あかり

	管理者	生活支援員	調理員	常勤換算 職員数計
福祉ホーム	明和寮兼務	3	1	4

港区障害者地域生活支援センター

	管理者	相談支援 専門員	事務員	常勤換算 職員数計
指定(委託)相談支援事業	1	4	2	4.5

地域活動支援センター あちえつとほーむ

	管理者	指導員	常勤換算 職員数計
地域活動支援事業	1	4(2)	3.8

() 内はわくわく兼務

わくわくキッズ

	管理者	サービス 管理責任者	指導員	常勤換算 職員数計
児童デイサービス	サビ管兼務	1	4(2)	3

() 内はあちえつと兼務

Ⅱ 施設利用者概要

～利用者の現状～

※単位はすべて（人）

1. 光和寮

○就労移行支援事業<名古屋東ジョブトレーニングセンター>

①入退所状況

	期 首		年度内		期 末		定 員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(1)	13	9	13	9	(3)	—
女	(1)	4	0	3	1	(3)	—
計	(2)	17	9	16	10	(3)	18

※入退所状況の表について

4月 1日（以下 期首）入所者は期首在籍者に含み、年度内入所者には含まない。

3月31日（以下 期末）退所者は期末在籍者に含み、年度内退所者には含まない。

（以下同種の表についても同様）

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	0	2	0	4	4	10
重複障害	0	2	0	0	0	—
合 計	0	2	0	4	4	—

※3月31日現在 重複障害については再掲（以下同種の表についても同様）

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
4	2	3	1	0	0	10

※3月31日現在（以下同種の表についても同様）

○就労継続支援事業B型

①入退所状況

	期 首		年度内		期 末		定 員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(0)	44	10	1	53	(0)	—
女	(0)	18	4	1	21	(0)	—
計	(0)	62	14	2	74	(0)	80

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	33	36	1	4	0	74
重複障害	8	1	1	1	0	—
合 計	41	37	2	5	0	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	11	10	20	27	6	74

○生活介護事業

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	16	10	0	5	0	29
重複障害	2	0	0	3	0	—
合計	18	10	0	8	0	—

②障害程度区分

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	4	9	7	6	3	29

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
3	0	4	6	6	10	29

○施設入所支援

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	14	9	1	0	0	24
重複障害	3	1	1	0	0	—
合計	17	10	2	0	0	—

②障害程度区分

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	8	12	2	0	0	24

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	2	2	8	10	2	24

2. ガイドネットあいさぽーと

○居宅介護等・移動支援事業

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	39	1	0	0	0	40
重複障害	3	0	0	0	0	—
合計	42	1	0	0	0	—

②障害程度区分（利用には必要なし）

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
38	0	0	0	1	1	0	40

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
3	2	4	5	15	11	40

3. かわな

○福祉ホーム

①入退所状況

	期首		年度内		期末		定員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(1)	8	1	2	8	(0)	—
女	(0)	4	1	2	3	(0)	—
計	(1)	12	2	4	11	(0)	15

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	3	8	0	0	0	11
重複障害	0	0	0	0	0	—
合計	3	8	0	0	0	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	1	0	3	6	1	11

4. やすだ

○福祉ホーム

①入退所状況

	期首		年度内		期末		定員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(8)	8	2	1	9	(0)	—
女	(0)	0	1	0	1	(0)	—
計	(8)	8	3	1	10	(0)	11

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	2	8	0	0	0	10
重複障害	0	0	0	0	0	—
合計	2	8	0	0	0	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	2	2	1	4	1	10

5. デイサービスセンター クリエイト川名

○地域活動支援事業

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	27	0	0	0	0	27
重複障害	0	0	0	0	0	—
合計	0	0	0	0	0	—

②障害程度区分（利用には必要なし）

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
4	0	17	5	1	0	0	27

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	0	3	0	4	20	27

6. 港ワークキャンパス

○就労継続支援事業A型<ライトハウス名古屋金属工場>

①入退所状況

性別	期首		年度内		期末		定員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(1)	47	14	4	57	(3)	—
女	(0)	2	2	2	2	(1)	—
計	(0)	49	16	6	59	(4)	60

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	6	32	2	16	3	59
重複障害	2	0	0	0	1	—
合計	8	32	2	16	4	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
2	8	7	15	19	8	59

○就労継続支援事業B型<KAN食品開発センター>

①入退所状況

性別	期首		年度内		期末		定員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(0)	8	0	1	7	(0)	—
女	(0)	4	2	0	6	(0)	—
計	(0)	12	2	1	13	(0)	20

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	4	6	0	2	1	13
重複障害	0	0	0	1	0	—
合 計	4	6	0	2	1	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	3	4	2	2	2	13

7. みなと

○福祉ホーム

①入退所状況

性別	期 首		年度内		期 末		定 員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(0)	18	0	2	16	(0)	—
女	(0)	0	0	0	0	(0)	—
計	(0)	18	0	2	16	(0)	20

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	5	11	0	0	0	16
重複障害	1	0	0	1	1	—
合 計	6	11	0	1	1	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	1	2	4	3	6	16

8. 明和寮

○就労移行支援<港ジョブトレーニングセンター>

①入退所状況

	期 首		年度内		期 末		定 員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(2)	19	11	13	17	(0)	—
女	(0)	4	3	4	3	(0)	—
計	(2)	23	14	17	20	(0)	15

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	1	0	0	17	2	20
重複障害	0	0	0	1	0	—
合 計	1	0	0	18	2	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
5	11	4	0	0	0	20

○就労継続B型<ビーサポート>

①入退所状況

	期首		年度内		期末		定員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(0)	83	8	5	86	(0)	—
女	(0)	19	2	1	20	(0)	—
計	(0)	102	10	6	106	(0)	100

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	16	78	1	5	6	106
重複障害	0	0	0	11	5	—
合計	16	78	1	16	11	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	5	14	30	30	27	106

○生活介護事業<ぷちとまと>

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	1	14	0	3	0	18
重複障害	0	0	0	6	2	—
合計	1	14	0	9	2	—

②障害程度区分

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	0	2	3	3	10	18

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
3	4	3	2	3	3	18

○施設入所支援

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	9	28	0	0	0	37
重複障害	0	0	0	4	1	—
合計	9	28	0	4	1	—

②障害程度区分

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	3	15	14	5	0	0	37

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	0	4	10	14	9	37

9. みなとガイドネット

○居宅介護等・移動支援事業

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	21	23	0	1	0	45
重複障害	2	1	0	2	0	—
合計	23	24	0	3	0	—

②障害程度区分（移動支援事業は含まれない）

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	0	1	3	7	7	18

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
4	2	1	5	7	31	50

10. 黎明荘

○福祉ホーム

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	2	4	0	0	0	6
重複障害	0	0	0	0	0	0
合計	2	4	0	0	0	6

②年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	0	0	2	3	1	6

11. あかり

○福祉ホーム

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	0	17	0	0	0	17
重複障害	0	0	0	2	1	—
合計	0	17	0	2	1	—

②年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	0	1	4	7	5	17

12. 港区障害者地域生活支援センター

○指定（委託）相談支援事業＜Kiraraぼーと＞

①障害種別状況

	相談者数	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者	305	165	5	79	28	2	4	2
障害児	55	12	10	25	1	1	0	0
合計	360	177	15	104	29	3	4	2

13. 地域活動支援センター あちえっとほーむ

○地域活動支援事業

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	9	51	3	17	2	82
重複障害	3	10	4	5	2	—
合計	12	61	7	22	4	—

②年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	8	12	10	17	35	82

14. わくわくキッズ

○児童デイサービス

①障害種別状況

肢体＋知的障害	視覚＋肢体＋知的障害	知的障害	合計
16	2	14	32

Ⅲ 就労活動の概要

1. 光和寮

○就労継続支援事業B型

(1) 就業時間

年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
1, 722時間	111日及び誕生日休暇	7時間

就労時間 8時30分～16時50分
 休憩時間 ①10時00分～10時10分
 ②12時00分～13時00分（昼食）
 ③15時00分～15時10分

(2) 年間売上高の推移 単位（千円）

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
年間売上合計	65,929	101,459	115,588	68,764	68,773

(3) 平均工賃の推移 単位（円）

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
最高工賃	134,792	191,040	332,223	298,867	247,140
最低工賃	10,859	12,360	12,301	8,930	8,581
平均工賃	41,771	51,856	55,324	50,470	50,537

2. 港ワークキャンパス

○就労継続支援事業A型<ライトハウス名古屋金属工場>

(1) 就業時間

年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
1, 524時間	111日及び誕生日休暇	6時間

就労時間 8時20分～15時20分
 休憩時間 10時10分～10時20分
 早番：12時00分～12時50分（昼食）
 遅番：12時30分～13時20分（昼食）

(2) 年間売上高の推移 単位（千円）

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
年間売上合計	591,637	630,730	669,705	391,634	242,625

(3) 平均工賃の推移 単位（円）

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
最高工賃	285,070	314,538	299,181	298,864	255,497
最低工賃	54,440	55,860	60,707	55,967	51,717
平均工賃	109,480	103,802	117,371	116,761	102,963

○就労継続支援事業B型<KAN 食品開発センター>

(1) 就業時間

年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
1, 265時間	112日	5時間

就労時間 9時00分～15時00分

休憩時間 12時30分～13時20分(昼食)

※その他、作業の間に適宜休憩

(2) 年間売上高の推移

単位(千円)

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
年間売上合計	—	33,827	55,596	73,757	64,579

(3) 平均工賃の推移

単位(円)

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
最高工賃	—	50,520	74,403	107,730	60,187
最低工賃	—	13,560	38,160	15,574	23,604
平均工賃	—	26,634	35,383	54,881	38,921

3. 明和寮

○就労継続支援事業B型<ビーサポート>

(1) 就業時間

年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
1, 595時間30分	112日	6時間30分

就労時間 8時35分～16時35分

休憩時間 ①10時05分～10時20分

②11時50分～12時50分(昼食)早番

③12時20分～13時20分(昼食)遅番

④14時50分～15時05分

(2) 年間売上高の推移

単位(千円)

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
年間売上合計	164,328	168,422	227,282	219,426	191,730

(3) 平均工賃の推移

単位(円)

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
最高工賃	245,627	244,400	244,400	179,424	161,461
最低工賃	11,493	14,650	14,650	14,219	9,968
平均工賃	46,416	42,121	42,121	44,856	37,709

IV 各事業所の状況

1. 光和寮

○就労移行支援事業〈名古屋東ジョブトレーニングセンター〉

一般就労を目指している障がいのある方のサポートを目的に平成20年1月にスタート。22年4月にはワーク棟が新增築され、訓練室も3倍の広さになり、気持ちも新たにリニューアルオープンする予定となっている。

就職を希望する人に一定期間（2年間）、就労に必要な知識及び能力の向上に必要な訓練を行い、就職の準備、実習、適職・職場探しに関する支援をするとともに、就職後も安定して働きつづけられるように支援をしている。

■定員 18名 利用期限 最長2年間

■利用対象者

- 各種手帳所持者。
- 働く意欲や意思があり、職業訓練を受けることにより就労が見込める方。
- 自力通所が可能で基本的な身の回りの事が出来る方。

■支援内容

- 就職に必要な様々な力を習得する為の訓練
 - ・訓練教材を使って個々の作業能力の向上を図るだけでなく、職場内のマナーやルール身だしなみ、コミュニケーションスキル（挨拶、返事、報告、質問）などの習得。
- 適性に合った職場探しや、就労後の職場定着。
 - ・個々の適性に合った職場での就職を目標に、就職活動の際には、ハローワークへの付き添いをすると共に、履歴書の書き方、面接での受け答えなどの習得。
 - ・就職後も定期的に職場訪問を行い、安定就労、長期就労が出来るよう支援。

21年度は6名が就職。すでに22年4月からも2名の内定者が決まっている。今後は広くなった新訓練室を活かし、より実践に近い形で訓練できるよう訓練内容の充実を図る。また、「はたらく」を実感できるよう施設外の様々な事業所で職場見学・体験実習等を行うなど、利用者の一般就労をしたいとの思いが実現するよう多方面からの支援をしていきたい。



○就労継続支援事業 B 型

(1) 治療院

名古屋ライトハウス創設以来の伝統ある職場で、鍼・あんまマッサージ指圧師等の資格を持った方々に働く場を提供している。

営業時間は午前 9 時半から午後 7 時半で、現在は 10 名の方が利用している。

また、仕事時間は早番で午前 8 時半から午後 5 時 20 分、遅番では午前 11 時から午後 7 時半となっている。

国家資格のあんまマッサージ指圧師および、はり師が施術にあたっている。

施術については、30分・60分・90分コースなどのほかに鍼コース・フルコース（マッサージと鍼）などがある。

施術用ベッドは12台あり、広々とした治療室になっている。

鍼治療には使い捨て（ディスポ）の鍼を使用しており、安全面においても配慮している。また、受付（電話・窓口）や会計、施術ベッドの整備なども業務のひとつと位置づけているため、利用者の大事な業務のひとつとなっている。

ライトハウス治療院では、接客や治療室のセッティングも就労支援と考えており、治療技術のみではなく、全体的な向上を考えている。

受付は利用者と職員の2名で行い、受付業務がスムーズに行くように配慮している。

利用者の方々が休憩できるように控え室には机と椅子が設置してある。



(2) デザインプリント科

光和寮の印刷事業は40年の歴史があり、活版印刷から始まり現在はオフセット印刷・オンデマンド印刷により、名刺、封筒、冊子等、官公庁を中心に受注活動を行っている。近年の印刷業界は、アナログ印刷からデジタル印刷に変化してきている。現在、小ロットの印刷物に関しては、利用者の作業面において以前まで負担の多かったオフセット印刷から負担の少ないオンデマンド印刷に切り替えた。車いすや、片麻痺の利用者でも名刺などの印刷及び断裁、テープ貼りなどの作業ができるように内製作業の効率化を図っている。昨年度、名刺印刷においては、他の印刷を行っている障害者施設と連携をはかり共同受注といったしくみを新しく試みた。設備面においてはアナログ製版機の老朽化に伴い、日本財団の助成によりCTP製版機の導入をした。断裁機についても老朽化と、安全面のため入れ替えをおこなった。繁忙時には作業の安定を図るために部品加工科、就労移行支援事業との協力体制を取りながら仕事を進めている。また、編集作業においてもインデザイン、イラストレーター、フォトショップなどの専門ソフトの操作を指導し、品質向上と受注拡大に努めている。



(3) 録音速記科

テープ起こしは国、県、市の会議、シンポジウム、審査会や、病院、大学などの講演会で収録された音声をワープロ原稿に文字データ化する。ただし単純に文字データにするだけではなく。その原稿が冊子になるのか、それとも裁判などの証拠（書証）になるのかで文章を作り分けている。前者は読みやすく。後者は音声に忠実に、である。

当施設の録音速記の強みは、名古屋市内なら無料で出張録音することである。また、お客様のご要望があれば会場の手配、案内状の発送、アンケートの集計などお客様にとって面倒くさいことや、過去に出版された冊子などドキュメント類のデジタル化。カセットテープのダビングやデジタルメディア化など今日的な仕事も行う。今後、さらに新しい提案をお客様にしていきたいと考えている。

(4) 部品加工科

当科では、手作業を中心とした仕事を多種多様な障がいをもっている方々に提供しており、仕事を通しながら、責任感・連帯感・意欲・態度・生活力等を支援している。

今年度は昨年からの不況の影響も少なからず受けつつも、年度後半にかけて次年度へつながる動きとして営業活動もしてきた。

現在52名の方が作業を行うので多品種・多量品も納期に遅れることなく納品させて頂いている。今後は、少しずつではあるが機械化を進め、より多くの障がいをもっておられる方々に仕事提供ができるよう、また1つでも多くの事ができるよう進めて行き高い工賃に繋がるよう、より多くの企業・役所・施設等と連携を取りながら目指していきたいと考えている。



○生活介護事業

■定員：20名／1日

■活動時間：10：00～15：00

■利用対象者：次の条件を満たす方

- ・名古屋市在住（原則）
- ・障害福祉サービス受給者証＜生活介護＞の交付を受けている方
- ・障害程度区分3以上（50歳以上の方は区分2以上）

「あなたらしく集う場所、輝（ひか）る場所」をモットーに日中活動の場を提供している。

今年度より「生活介護事業」と「地域活動支援事業」に分かれたので、活動内容も対象利用者に添うよう見直した。さまざまな活動を通して、身体能力・日常生活機能などの維持向上を目指し、より豊かな日常生活を送っていただけるよう努めている。

■サービス内容

- 給食 □送迎 □入浴 □創作活動（書道、図画工作、ビーズ細工、陶芸）
- 社会適応訓練（買物訓練、調理訓練、歩行訓練）
- 機能訓練（体操、リトミック、マッサージ）
- レクリエーション（麻雀、ゲーム、運動会、クリスマス会等）
- その他健康相談・生活相談など

■今後の展開について

10代～80代の利用者が在籍し、身体機能にも差があるため、フロアのレイアウト変更をし、年齢や障害を問わない受け入れを目指す。

また、対象利用者の拡大につながるよう養護学校の実習生を積極的に受け入れていく。



○施設入所支援

旧法でいう入所型授産施設の経過措置として、引き続き、障がい者に対して住居と食事の提供を行っている。

入所者へは、各個人が社会生活を営む上で、必要となる生活技術の獲得を目指した支援を行っている。具体的には、自室の清掃、金銭の自己管理、体調管理、通院などである。就労部門と連携し包括的な支援ができるよう努めている。また、希望者に対しては、福祉ホームへの移行など、地域生活に向けての情報提供を行っている。



2. ガイドネットあいさぽーと

○居宅介護等・移動支援事業

深刻なヘルパー不足から、新規や既存利用者の追加の依頼を受けるのが困難な状況。現状は視覚障害者の方への移動支援と盲学校の学校送迎を中心にサービス提供をしている。ニーズに応じていくためにも引き続きヘルパー確保に努めるとともに、ガイド講習を開催しヘルパーの質向上にも力を入れていく。

3. かわな

○福祉ホーム

地域でのごく普通の生活を希望しながらも、家庭環境、住宅等の諸事情により、居宅において生活することが困難な障害者に対し、3年を限度として低額な料金で日常生活に適応するような居室その他の設備を提供し、必要な便宜を図ることを目的としている。

定員	15名	世帯用居室ー	1室 (41.16 m ²)	
		単身用居室ー	13室 (23.98 m ² ~29.7 m ²)	
		1 Fー	3室 (車椅子使用障害者向け	1室は世帯向け)
		2 Fー	5室、	3 Fー 6室

<利用料一覧>

単位 (円)

区分	非就労	福祉的就労	一般就労	備考
利用料 (賃料)	0	7,500	15,000	単身世帯
	0	12,500	25,000	夫婦世帯
共益費 (管理費)	5,000	5,000	5,000	単身世帯
	5,000	5,000	5,000	夫婦世帯
合計	5,000	12,500	20,000	単身世帯
	5,000	17,500	30,000	夫婦世帯

■ 21年度の利用状況について

多くの方に施設を利用してもらうため、長期入居者に対して地域移行促進のための声掛け等を行い、地域生活移行支援の結果、市営住宅当選者1名、体力問題より自宅へ1名、一般住宅へ2名が移行。また今年度市営住宅に3名が当選し、来期早々に地域移行を叶える。



4. やすだ

○福祉ホーム

定員	・・・	11名
設備	・・・	10室（個室9室、2人部屋1室）
料金	・・・	家賃 7,500円
		共益費 5,000円
		光熱水費 10,000円
		合計 22,500円



やすだ 居室内

《平成21年度の状況》

平成21年4月から、入所施設の3階フロアを定員11名の福祉ホーム「やすだ」として新たにスタートした。

入所施設でなく、在宅生活となったため制度上社会資源である家事援助・移動支援等のヘルパー利用ができるようになった。

当施設は、入所施設から地域生活移行に向けての準備段階としての役割を担うことから、今後も個別に地域移行の計画に沿った住宅情報の提供、ヘルパー利用などの支援を行っていく。

5. デイサービスセンター クリエイト川名

○地域活動支援センター

■定員：19名／1日

■活動時間：10:00～15:00

■利用対象者：名古屋市在住の視覚障がいのある方

生活介護事業と分割してH21年4月に新事業としてスタートした。H22年3月現在で登録者数28名。活動を通してスキルアップやピア交流ができる日中活動の場を提供している。

■サービス内容

- 給食 送迎サービス 手芸（編み物、ビーズ細工等） 盲人卓球 陶芸
- カラオケ 音声パソコン 外出訓練 調理訓練
- レクリエーション（夏祭り、クリスマス会等）など

■今後の展開について

カラオケや盲人卓球などのレクリエーションや手芸が中心であるが、より充実した日常生活が送れるよう、歩行訓練や買い物訓練を定期的に行う。またピア交流の場としてミニ茶道や菓子作りを行い、利用者の憩いの場・情報交換の場として、居心地のよい日中活動の場になるよう努める。



6. 港ワークキャンパス

1948年3月

障害者の自立を目指して製缶工場を始める

1983年8月

光和寮より分離独立、現在の港ワークキャンパスに

2008年1月

障害者自立支援法による新事業への移行を行った
授産施設 → 障害者支援施設（入所支援・A型）

2008年4月

就労継続支援多機能型（A型・B型）へ変更
入所部門は、福祉ホームに移行
KAN食品開発センターがB型として
光和寮から港ワークキャンパスの所属へ変更

《施設外観》



平成21年度は、報酬単価の見直しもあり、A型、B型、福祉ホームでの就労事業、経常活動トータルで一億円以上の活動収支差額の改善は見られるが、不良在庫の山に見られた様な傷んだ施設経営内容は未だ健全化には至っていない。全てを一から見直す事により来期への基礎固めとしたい。今期からトライアルで始めたレトルト加工、蒟蒻製品加工も事業化のメドが立ち、第二工場での本格稼働を予定している。缶製品、パンの缶詰に続く第三の柱に育てて行きたい。

○新事業 <レトルト加工事業>

レトルト食品加工及びコンニャク加工業務を行っている。

(1) コンニャク加工業務

- ① 機械でコンニャクを結ぶ
- ② パック詰め
- ③ ボイル殺菌
- ④ X線異物検査
- ⑤ 出荷

(2) レトルト食品加工業務

コンニャクラーメンや、粒コンニャクの他にも、さまざまな食品の加工を行っている。

- ① 計量
- ② 真空パック
- ③ 商品に合わせた加熱殺菌
- ④ X線異物検査
- ⑤ 出荷

《作業場》



《レトルト機》



○就労継続支援A型 <ライトハウス名古屋金属工場>



金属加工（主に製缶）事業を行い、雇用契約を結んで働く場として、様々な障害がある方に仕事を提供し従業員一丸となって働いている。

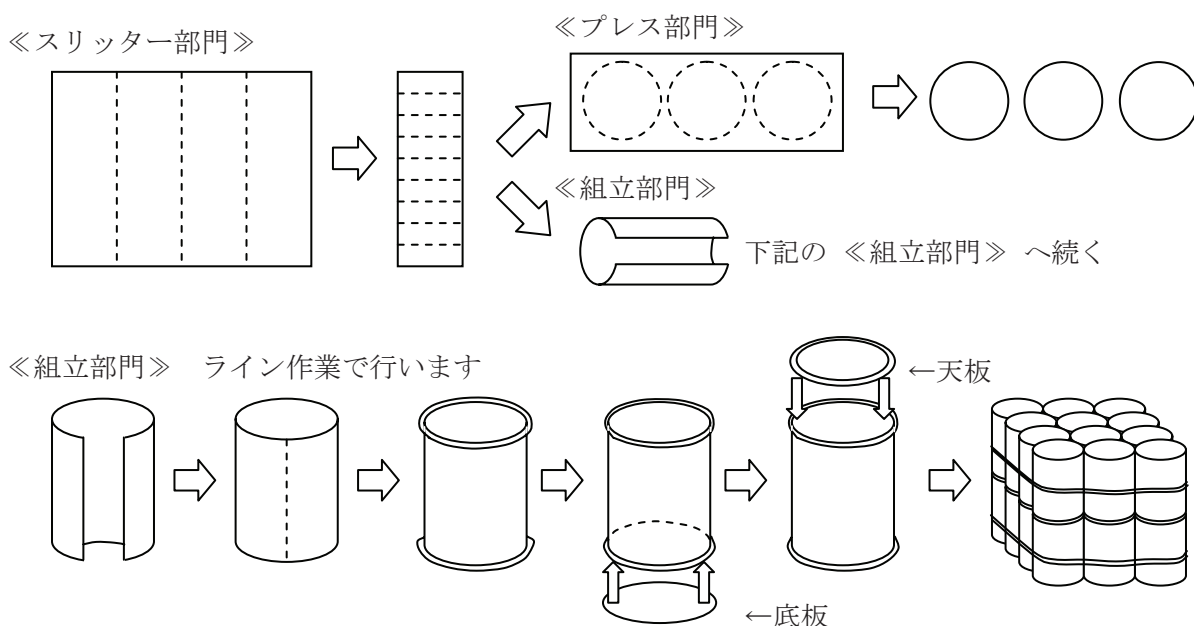
スリッター部門 … 材料の切断

プレス部門 … 部品を抜く

組立部門 … 缶の生産で構成されている。

缶の形も、丸型、角型、テーパー型など、バリエーションが豊富である。

障害のある方が働きやすいよう製缶工程を細分化し、作業中の移動を少なくしている。



「平成21年度の状況」

平成21年秋 アメリカ金融業界発の世界的規模の構造不況は、年度を越えても回復の足取りは重い。住宅着工件数の大幅な落ち込み、自動車の販売不振は接着剤、潤滑油、塗料等の生産、出荷を直撃し包装材としての缶製品売上げの落ち込み傾向に底を打つ気配は見えない。利用者の就業時間の短縮、正職員数の削減、非常勤職員化、仕入れ、販売価格の見直し、20年3月末に比べ製品在庫5分の一以下、材料在庫半分にしトータル在庫金額を約50%に、等々打てる施策は尽くして支出を抑えたが、収入の大幅減少がその効果を薄めている。

そうした中で、定年制の導入により年功序列賃金の歪みの大きかった利用者給与制度の適正化、勤務評価による定時昇給制度の確立、ハローワーク、養護学校からの新利用者の受け入れ、永年の課題であった施設トイレの洋式化、施設内リフォーム、福祉ホーム居室床のフローリング化、製缶設備の一部入れ替え等前向きな動きも出来た。

22年に入り若干ではあるが缶製品売上げが前年をオーバーして来ている。四月からは新規大口取引も決まり、売上げ拡大を目指すと共に内容、支出をよりシビアに見直し収益改善に繋げて行きたい。

○就労継続支援B型 <KAN食品開発センター・園芸作業>

(1) KAN食品開発センター

パンの缶詰は阪神大震災を機に保存食として生まれた。施設として障害者が地域で自立して暮らしていくことを支えるためには、内職の延長に近い事業だけでは限界があり、新規事業を検討した結果、パンの缶詰に至った。従来の“パン生地を缶に詰めて焼く”製造方法ではなく、“焼いたパンを缶に詰める”製造方法を考案した。

《特徴》

- ☆ 1缶に2個入りで、焼きたての風味がそのまま
- ☆ 災害時、アウトドア、おやつ、贈答品にも最適
- ☆ ふっくら・やわらかなまま3年間の保存が可能
- ☆ チョコチップ味・レーズン味・コーヒナッツ味の3種類がある

(2) 園芸作業

緑化資材(いわだれ草など)の生産を行っている。自然相手の作業なので、思うようにならないこともあるが、植物が育つ過程には感動を覚える。依然として、利用者に常時作業を行っていただくほどの作業量はないが着実にいわだれ草や芝生の育成は進んでいる。

《平成21年度の状況》

KAN食品開発センターが新社屋へと移転し、家賃の削減、顧問契約の解除、社外との不適正な関係の解消による単年度黒字化を目指し、職員、利用者の頑張りにより四年目にして初めて達成出来た。

新規通販業者への販売、学区イベントへの導入、販売先の見直しによる利益率のアップ等内容的にも改善は見られるので拡販、利用者の確保により更なる大幅黒字化を目指したい。

《園芸作業》



《生地を丸める作業》



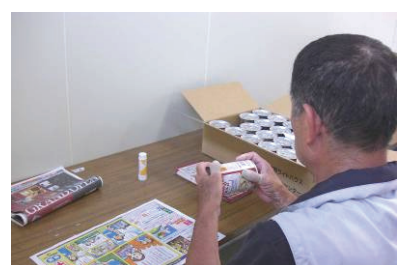
《焼いたパンの缶詰め作業》



《再度オーブンへ》



《ラベル貼り作業》



☆☆ 完成 ☆☆



7. みなと

○福祉ホーム

地域で普通に生活したいと思いながら家庭環境、住宅などの事情によって、地域での生活ができない障がいのある方に部屋や設備を提供している。

《対 象》

- ☆主に当法人で就労している方
- ☆共同生活をおくる上で支障がない方
- ☆掃除、洗濯、IADLが自立している方

《設 備》

単身用居室20室

《料 金》

施設利用者	家 賃	7,500円
	共 益 費	5,000円
	光熱水費	10,000円
	合 計	22,500円

《居室》



《食堂》



《平成21年度の状況》

平成21年度は、居室の壁の塗替え及びフローリング化を実施した。また、トイレの全室洋式化及びタイルや床の張替え、廊下や階段の床の張替え等、施設内の全面的な改装を行った。改装により雰囲気や使用感が改善されてきており、今後もより住みやすい福祉ホームになるよう改善を行っていききたい。

8. 明和寮

1979年11月

名古屋市初の重度身体障害者授産施設を開所

2008年1月

障害者自立支援法に伴い、新事業体系へ移行
就労継続支援事業（B型）「ビーサポート」・
就労移行支援事業「港ジョブトレーニングセ
ンター」・生活介護「ぷちとまと」を開設

2008年4月

入所部門の一部が福祉ホーム「あかり」として再編。黎明荘は通所ホームから福祉ホームとして再編され、それぞれ事業開始。

《施設外観》



○就労移行支援事業〈港ジョブトレーニングセンター〉

港ジョブトレーニングセンター(就労移行支援事業)のご案内

～ 就職を目指すあなたに・・・ ～

就職・再就職したい

就職活動を手伝ってほしい

働いた経験はあるが、人間関係でつまずき辞めた

働いた経験がなく、自分に合う職場がわからない

現在在学中、卒業後には就職にチャレンジしたい

- ・技能・・・製造・加工系、事務系、生活系などいろいろな作業体験をしましょう。
- ・基礎講座・・・どこで働くとしても必要なルール・マナーを講義・演習しましょう。
- ・ビジ初メ-講座・・・履歴書作成や面接練習など、就職活動に必要な準備をしましょう。



おまかせください

港ジョブトレーニングセンター

(就労移行支援事業)

港で見つけよう

新しい自分

明るい未来

■訓練生受入から就職

①相談受付→②来所していただき現状をお聞きする→③エントリー→④アセスメント(聴き取り、作業評価)→⑤個別支援計画の作成→⑥契約→⑦支援開始→⑧訓練導入期(2～3ヶ月):環境への適応、特性の把握→⑨訓練中期:課題の整理、アプローチ、求職活動準備→⑩訓練後期:具体的求職活動→⑪採用→⑫定着支援

定員12名で開設した本事業だったが、皆さんの『働きたい』という強い想いと声に後押しされる形で定員枠の拡大を申請。21年度は**15名定員**でスタートを切った。

定員は増やしたものの利用希望者数は更に上回り、日当りの平均利用者数も多い時期には18名を超え、『働きたい』想いと本事業に対する期待の大きさを改めて感じた。

本事業最大の目的である『就職』。これを目指し、障害者就職面接会や名古屋市企画の企業見学会・面接会へも積極的に参加、利用者の就労意欲を高めると共に、施設内外における訓練や実習を通じ就職への可能性を追い求めてきた。これらの活動の積み重ねを経て、20年度の成果として**4月で就職を果たした者が2名**。更に数名が就職し、**年間で計7名の就職者**を出す事ができ、現在もほぼ安定し継続して勤めている。



本事業には2年間という利用期限が設けられているなか、ここ暫く続いている不況の煽りもあり、作業能力はあっても求職活動が思う様に進まないケースも出て来ている。一般企業だけでなく就労継続支援事業所の情報収集にも努め、当センターを出た後も安心して就労できる環境を提供できるよう、今後も支援を行なっていきたい。

○就労継続支援事業 B 型〈ビーサポート〉

(1) 機器・車両整備について

ビーサポートの柱的存在である印刷事業では、危険が伴う、製本作業で必須の断裁作業を以前より一部の利用者と職員で行ってきた。昨今、利用者の障がい重度化が進み、この断裁作業のみで専門の職員を置く形となり、こういった職員の負担軽減と安全面への配慮、利用者の作業量確保、生産性の向上などの理由から、10月に利用者でも作業可能な三方断裁ロボットの購入・整備を行った。



《三方断裁機》

次に光和寮と共同で印刷売上管理ソフトの開発・導入（12月）を行った。これは、今までアナログ管理であった印刷事業の膨大な物件・売上情報、伝票作成、入金・売掛管理をデジタル化することにより、業務の大幅な効率化を図るものである。

また、年度末には以前より軽自動車による印刷物の配送作業には限界があり、積載量のある車両の購入を検討してきていたが、今期のエコカー減税などの制度を利用し、車両の入れ替えを行った。



《配送車両》

この他にも6月に、製品の搬入出やストックヤードとなっている広場において、雨よけのための可動式のテント（屋根）を設置。9月には以前より問題視されていた夏場の真空成型室の環境改善として、エアコンを2基設置した。

(2) 各事業の動きと結果

《印刷事業》

20年度の大不況の影響が名古屋市、愛知県の大規模な税収減という形で、今期の印刷事業に大きく押し掛かってきた1年であった。併せて、5月より名古屋市政の大きな変化と、4月より長年続けてきた営業担当が異動となり、非常に不安定なスタートとなった。

しかし、8月より編集OPを増員し、編集力の強化を図り、10月には製本設備を整備することによって、安定した現場を作り、営業面のフォローにも人員をまわすことによって安定を進めた。

今期末には新たに導入した売上管理ソフト、配送車両の買い替えにより、営業・配送の負担が大幅に改善した。



《印刷事業》

《組立加工事業》

以前より熱圧着ブリスター・エンドレスシラーなどを使い、売上・作業量確保のためのさまざまなアSEMBリ作業を展開してきた。そんな中、代表的なものとして20年度より始まったインサートの作業は、注文数も多いためインサート機の増設を行い、安定した売上を期待したのだが、多品種の割に低単価のため、職員負担が増えたにも関わらず、思ったほど伸びていないのが現状である。

《自動車部品事業》

主要取引先のひとつでは、20年度からの落ち込みと併せて、担当職員の入れ替えなどもあり、非常に不安定なスタートとなった。

以前のような大きな売上は見込めなくなったものの、今まで以上に利用者との関係性を深め、さまざまな業務改善を行った一年であった。

自動車関連の作業以外にもさまざまなアSEMBリ作業を行う中で、新型インフルエンザ対象商品で、大口のスポットアイテムがあり、一時的ではあるが落ち込んだ売上をカバーすることができた。

《包装加工事業》

こちらも年度初めに担当職員が代わり、引き継ぎながらのスタートとなる。他事業同様、厳しい中での事業展開であったが、半ば頃に新規取引先ができ、多品種小ロットで、安価ではあるが作業量は安定してきている。

真空成型で貸与機である1号機に関しては、かなりの老朽化が進んでいるため、今後の方向性を決め、早急に何らかの手立てをしていく必要性が出てきている。



《組立加工事業》



《自動車部品事業》



《包装加工事業》

○生活介護事業<ぷちとまと>

在宅の障がいを持つ方に、外出の機会や人との交流、社会参加の機会や趣味、創作等、充実した日中活動ができるよう支援を行っている。それらを通し「楽しい時間」「小さな充実」「自分の居場所」「くつろげる空間」を提供。

21年度末現在18名の方が登録。年齢、障害程度・種別も様々である。個人個人ができること、やりたいことに取り組んでいただいている。

《勤務体制》

- (1) 職員配置 4名 生活支援員 3名 看護師 1名
- (2) 開所時間 10:00～15:00

《日々の活動内容》

■日常生活支援

- ・昼食 個々の食事形態、状況に合わせた形で提供。食事介助の実施。
- ・送迎 港区及び熱田、中川区の一部。
- ・入浴 ボード浴及び個浴にて対応、可能な範囲で相談に応じる。
- ・排泄 介助、おむつ交換等、随時対応。
- ・各種レクリエーションの提供（別記）
- ・その他（バイタルチェック、足浴、体重測定等）



《棒を使いサッカーゲーム》

《レクリエーション等の活動》

- ・全体での取り組みとして、風船バレー、散歩、買い物、園芸、お菓子作り、創作活動（季節の壁画、飾りつけ作り）などを行っている。
- ・個人、または小グループでの取り組みとして、パソコン、インターネット、カードゲーム、卓上ゲーム、ジグソーパズル、ビーズアート等、本人の希望に合わせて行っている。
- ・季節行事として、花見、七夕祭り、スイカ割り、遠足、クリスマス会等を実施。
- ・レクリエーションへの参加や、過ごし方は基本的に自由。本人の希望や障害状況、体調に応じ、個人のペースで過ごしていただく。



《花見にお出かけ》

○施設入所支援

いわゆる旧法が定める身体障害者授産施設（入所）から、障害者自立支援法が定める日中活動の場と施設入所支援に移行した関係上、当施設の就労継続支援事業B型（ビーサポート）を利用する人が経過的に入所している事業である。経過的な事業のため、制度上の職員配置は宿直のみとなっている。

現行の障害者自立支援法が変わらなければ、平成23年度末には就労継続支援事業B型との利用（併用）ができなくなるため、それまでに福祉ホーム化する方向で準備を進めている。また、利用者数の減少にともない、平成21年10月に46名から40名に定員変更を行った。

明和寮のすべての事業に関連し、主に生活部分の支援を行う「生活支援」「生活支援・介助（寮父母）」「看護」「給食」の各部門がある。

施設入所支援利用者へのみサービスを提供しているわけではないが、紙面の関係上、施設入所支援として整理し、各部門の業務、状況を以下にまとめる。

（1）生活支援（3名体制、8:20～19:00）

利用者個々の生活相談支援、地域生活移行支援、入退所業務、老人ホーム等他施設への移行支援、利用者と市町村・関連機関・家族等の連絡調整・相談、社会資

源などに関する情報提供、受給者証など各種手続きの支援・代行業務、ボランティアの受入・調整などの業務を行っている。

(2) 看護（2名体制、9：00～18：00）

利用者の健康維持・管理に関する支援、医療機関との連携や家族との連絡調整、身体的・精神的状況の把握と対応、情報管理等の業務を行っている。また、健康管理の自立に向けての支援にも力を入れている。

(3) 生活支援・介助（寮父母）（2名体制、7：00～19：30）

利用者の日常生活支援（食事準備・清掃・ゴミの収集・入浴準備・ふとん干し・シーツ交換・その他依頼事）や相談業務を行っている。

また、障がいの進行や加齢に伴う身体機能の把握、安全に生活できるような環境の配慮にも努めている。

(4) 給食

給食は、365日の朝・昼・夕を提供している。食事の種類は、常食の方を主として、糖尿・腎臓・透析食などがある。

特徴として、月に1度のパン・ご飯の選択や主菜の選択を行うなど、家庭に近い手作りで安全・安心な食事の提供に努めている。

9. みなとガイドネット

○居宅介護等・移動支援事業

平成15年4月1日に事業開始して丸7年。ヘルパーが自宅まで訪問し、通院介助や買い物の付き添いなどの支援をし、港区在住の障がいのある方の社会参加や自己実現を応援している。また、個人的に1泊など泊まりの旅行にも応じている。

サービス提供日は毎日。「安心」「安全」「満足」をモットーにがんばっている。

（但し12月30日～1月3日は休業）

時間は8時～18時ですがその他の時間は相談に応じます。



4月 荒子川花見にて



5月 掛川花鳥園にて



6月 油ヶ淵菖蒲園にて

10. 黎明荘・あかり

○福祉ホーム

《運営方針》

福祉ホームあかり、黎明荘ともに、身体に障がいを持つ方に対して、自立を目的として3年の期限を設け、低額な料金で居室やその他の施設を提供している。

《入居対象者》

- ・主に当法人で就労している方
- ・基本的に、ADLの自立している方。ヘルパー利用で対応できる方も入居可。

■黎明荘

定員・・・10名

設備・・・5戸（2DK、個室10室）

料金・・・家賃	7,500円
共益費	5,000円
合 計	12,500円

※ 光熱水費は使用した分を支払う

■あかり

定員・・・20名

設備・・・17室（洋室6室、和室11室）

料金・・・家賃	7,500円
共益費	5,000円
光熱水費	10,000円
合 計	22,500円



黎明荘 居室内



黎明荘 居室内

《平成21年度の状況》

地域生活もしくは、ADL低下により他施設に移行される方が退所され、施設入所支援の利用者があかりへ1名、あかりから黎明荘へ在宅の環境に近い場での訓練の目的で1名新たに入居された。

平成22年3月末時点では、ヘルパー利用はあかりが17名中13名、黎明荘は6名中5名であった。昨年度に比べ人数的に減っているが 清掃などの間接支援だけでなく身体介護の利用が増えた。



あかり 居室内

1 1. 港区障害者地域生活支援センター

○指定（委託）相談支援事業〈K i r aらぼーと〉

平成14年7月支援費制度の開始を控え、明和寮が名古屋市からの委託を受け、港区内の在宅の身体・知的障害者児に対して相談員1人体制で開始した。平成18年4月より、障害者自立支援法の施行を受け、相談員3人体制に強化された。また、21年度は5月に事務所を新港栄荘の1階店舗に移転し、区役所からも近く、単独での事業所となったので来所される方にもより相談しやすい環境を提供できるようになった。

支援内容は、身体・知的に障害のある方やそのご家族が住みなれた地域で、より豊かな生活がおくれるよう、訪問・外来（電話、FAX、メール含む）での総合的な相談支援を行っている。福祉の情報提供、サービス利用の援助、ピアカウンセリング、サービス利用計画の作成などを行い、地域で暮らす障害者児を皆で支えていく仕組み作りを目指している。

〈施設外観〉



〈平成21年度相談実績件数〉

訪問相談：740件 外来相談：1861件 協議会等の開催：23回

■訪問相談支援には申請代行、他機関との調整、個別支援会議(年50回)なども含む。外来相談支援には電話・電子メール等も含む。

相談者は年間で360人。相談件数は、昨年より外来相談の件数が200件ほど増加し、年々相談件数は増加している。個別支援会議は年間50件。相談内容は、①支援者とうまく関係が作れなくて支援を安定して継続するのが難しいケース、②金銭管理など権利擁護に関する支援が必要なケース、③入所・入院から退所・退院など地域生活へ移行するために、居住場所探し・在宅生活を支えるためのサービス調整、④介護者が高齢となってきたケース、⑤家族支援の必要なケースなど、継続的な相談支援や他機関との連携が必要なケースが増えているため、定期的な相談支援に力を入れている。

地域課題の協議、個別のケース検討、ネットワーク作りを目的とした港区障害者地域自立支援協議会（定例会3回、研修会1回、部会1回）を開催。名古屋市に港区の地域の現状や課題などを伝える懇談会も近隣の区と合同で行った。また、港区障害者自立支援事業者連絡会の開催も支援している。

他、サービス利用計画作成（3月末 契約者10人）、障害程度区分認定調査(年間227件)、名古屋市賃貸住宅入居等サポート事業(入居支援2件、継続的支援3人)、障害者自立支援配食サービス受付窓口などの業務を行っている。

《情報コーナー》



《事務所》



12. 地域活動支援センター あちえっとほーむ

○地域活動支援事業

平成19年6月に新事業として開所して以来、順調に利用者は増えており、3月末で64名の登録があり、一日平均利用者数は約11名で週2回程度の利用者が多い。

創作的活動の場や交流の場を提供することにより、社会参加の促進と地域住民への障がい理解に努め、地域生活支援を充実させるというこの事業の目的を受け、障がいのある方のデイサービスとしてパソコンや料理クラブ、編み物、手芸、音楽療法、太極拳、点字、視覚障害パソコンなど14講座に加え、今年はビーズ、麻雀、ビデオ鑑賞会の3講座を加え、計17講座を実施した。講座以外にぬり絵や折り紙・学習ドリルなどの自由活動も行ってきた。期の途中で職員の増員もあり、より個別支援を充実させることができた。様々な支援活動を通じて社会参加やピア交流の場、やすらぎの場所、次へのステップをかなえるための力添えを目指している。

今年は利用者として来所していた人がパソコン講座でスキルを身に付け、ボランティア講師として活躍され、生活リズムを整えて就職に繋がったケースもあった。



13. わくわくキッズ

○児童デイサービス

平成19年の開所から2年が過ぎ、利用者も増え4月で24件、3月には契約数が32件、月間利用延べ回数188回、1日平均利用者数は定員10名に対して10.7名となった。わくわくキッズの方針である、すべての利用者が満足できる活動内容を行うこと、そして職員全員が問題を共有し、前向きに解決する姿勢を念頭に、<ひとりひとりを大切に><成長発達への援助><自分でできることが増えるように>のねらいを基本に取り組んできた。



利用者の障害別では知的ダブル障害16名（重心・全盲含）、身体2名、知的障害14名（自閉6名・ダウン2名）である。この1年どの子ども仲間としてのかかわりも深まり、初の親子参加のバスツアーも活動の中に入れて、楽しく毎日を送っている。

V QMS活動報告

～目に見える変化に向けて～

前年度末に実施されたマネジメントレビューにおいて、ISO9001で規定されている「品質マニュアル」が大幅に改訂され、名称も「品格マニュアル」として、名古屋ライトハウス独自の価値を見出そうとするきっかけづくりができた。福祉サービスを担う当法人の職員にとって、利用者の満足度向上はQMS活動以前の大前提であり、満足度を確実に高める活動としての「業務改善」とそれを通して「職員育成」を図ることこそが名古屋ライトハウスのQMS活動の目的であると位置付けた。

当年度は、前年度のハーフタイム宣言を受け後半戦の開始ということで、マニュアルに謳ったその価値を具体的な活動に落とし込み、活動を担う職員に名古屋ライトハウスのQMS活動の変化が目に見えるようにすることを目指した。

□「品質目標」の法人統一化と各部門での取り組み

当年度より、これまで品質方針から落とし込んで各施設単位で設定していた品質目標を、法人統一の品質目標として打ち立て、それを各部門が具体的な活動目標に落とし込んで達成を図るように改めた。これにより、施設ごとの独自色は多少薄まるものの、法人全体としての課題を明確にし、多岐に亘る各部門での活動がフィードバックされ他部門での活動の参考とする水平展開を図ることができるようになった。

当年度の目標は、大幅に改訂されたマニュアルの周知や法人一体となつてのQMS活動をより浸透させていきたいとの考えから、以下の品質目標が設定された。

<平成21年度 品質目標>

価値・方針・情報を共有せよ

目標の統一化と同時に、活動が日常業務に埋もれてしまい成果が測りにくくならないよう利用者へ直接関係する表現を避け、組織・職員の質を高めていけるように、また、必ずしも数値目標にこだわらず、中身の充実が客観的に測れるものであれば良いとした。

この目標を受けて各部門は、会議・ミーティングなどのあり方を見直し、それぞれの業務内での会議等の位置付けを明確にし、職員間の連絡・周知の徹底化を図る向きが多く見られた。またもう一步進んで、共有する情報の取捨選択の方法を改善し、その時々で必要な情報が即座に得られるような仕組みをITを活用して構築した部門もあった。施設単位でも、会議体系の見直しや活発化、議事録の周知徹底を図り、また組織体制の見直しにより情報の流れを改善したところも見られ、法人一体となつて同じ活動を実施していることをより印象づけることができた。

□「内部監査」の役割の明確化

法人全体としてのQMS活動が確実に成果を出しているかどうかを確認し、また、新しい活動とこれまでのISO活動との違いを見極めて業務改善を促す、さらには、数値ではわかりにくい活動の成果を直接現場で確認するなど、ISO9001要求事項への適合をチェックしていた頃に比べ、内部監査員に求められる役割は大きく・深くなった。法人全体活動として同じ意識が共有でき、活動成果を感じ取り声に出すことで成果を印象づけるのと同時に他へも活かしていくなど、ある意味においては、内部監査員こそがQMS活動の成果を明確にする部隊であるとも言える。このように大きな責任を担うことになる内部監査員を、役職者の役割のひとつとして位置付けることになった。

課長（係長）は、その役割のひとつとして内部監査員として他施設に赴き、自身のマネジメントの経験を活かして他施設の活動のチェックを行うのと同時に、相手施設での成果を自身の施設でも活かすことができる。その実現ために、これまで内部監査員ではなかった課長職が、実習の場として内部監査に同行した。

ただ、法人統一の意識を共有することや、活動の中から成果を見極めて引き出すための知識・技術の習得のために、課長職を対象とした全体での研修の機会を設けることを課題として早急に対処していかななくてはならない。

□QMS委員会

前年度に続きQMS委員会を毎月実施した。ただし、参加する職員を「課長」「内部監査員」「QMS委員」のローテーションで実施した。毎回、QMS活動状況の進捗の確認に加え、課長が参加する回では、各施設の方針を統一したフォーマットによる明示化を進めていくための模索を行った。また、内部監査員が参加する回では新しいマニュアルの下での監査体制について意見交換や調整を行い、QMS委員が参加する回では、新しいマニュアルをさらに見直す作業を実施した。

□次年度へ向けて

平成22年2月に行われた当年度のマネジメントレビューにおいて、ここ数年のQMS活動の改定は、名古屋ライトハウス独自のマネジメントシステムを構築していくためであり、QMS活動の主体を本来の事業活動の主体である法人本部に移管することで、より強制力と継続性を維持できるのではないかと方向性が示された。次年度はまず、内部監査体制を法人本部の主管とし、法人内のすべての事業活動を対象とした監査体制を目指すこととなった。

VI その他活動について

1. 東部施設

利用者、職員の親睦会を中心として季節に応じた行事を企画、実施している。
平成21年度は、新型インフルエンザの流行等により、幾つかの行事が中止となったが、開催した行事の中から幾つかを紹介する。

○地域交流フェスティバル

11/14(土)

広路学区地域連絡協議会の協力を得て、地元の方々に当施設の紹介、利用者と地域の皆様との交流の場を毎年開催している。



○クリスマス会

12/19(金)

利用者が中心となり、企画
・開催する行事となっている。今年度も利用者から歌
・演奏などの得意な一芸を披露し、楽しい時間を過ごせた。



○スポーツクラブ

月に1回開催

スポーツ吹き矢、ボーリングなどを通じて会員間の交流を図っている。
発足から5年を経過し、会員数も徐々に増えつつある。



2. 西部施設

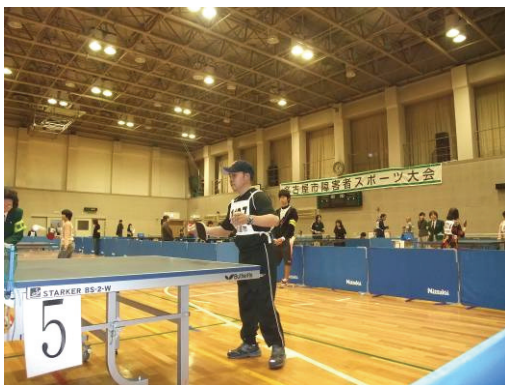
○行事

<内部での行事>

月 日	行 事 名
8月 1日	夏の宴2009（納涼祭）
8月29日	名古屋港水族館
10月10日	名古屋ライトハウス物故者慰霊祭
12月15日	もちつき
2月11日	お千代保稲荷
3月 5日	親和会による食事会
3月13日	ボランティア協力食事会

<外部行事に参加>

月 日	行 事 名
5月10日	名古屋市障害者スポーツ大会（陸上の部）
8月23日	名古屋市障害者スポーツ大会（水泳の部）
10月25日	港区障害者と区民のふれあい広場
10月31日	常滑競艇場招待
11月29日	名古屋市障害者スポーツ大会（卓球の部）
11月30日	名古屋市障害者スポーツ大会（ボーリングの部）
2月20日	福祉の店



スポーツ大会（卓球の部）



親和会による食事会

○クラブ活動

親和会（親睦と福利を目的として職員・利用者が任意に加入する組織）の中でクラブを作り、自分達のやりたいことを自発的に行っている。

将棋クラブ	書道クラブ	カラオケクラブ	名曲クラブ
切り絵クラブ	スケッチクラブ	陶芸クラブ	手芸クラブ
卓球クラブ	吹き矢クラブ	フラワークラブ	ゴロバレークラブ

Ⅶ 名古屋ライトハウスの沿革

昭和21年10月	盲人の自立更生と福祉増進をめざして片岡好亀、近藤正秋が中心となり愛知県盲人福祉協会を設立
昭和22年 8月	鍼灸共同治療所および愛盲ホーム光和寮を開設
昭和23年 7月	盲人の新職業開拓を合言葉に、金属作業部（製缶）を設立 点字出版の事業を開始 社団法人愛知県盲人福祉協会となる
9月	聖女ヘレン・ケラー女史来所
昭和27年 5月	社会福祉法人に組織変更し、第一種身体障害者授産施設となる
昭和32年 8月	名古屋ライトハウスと改称
昭和33年 9月	身体障害者福祉法による民間委託授産施設となる
昭和38年12月	あけの星声の図書館事業を開始し併せて点字出版所を新設
昭和41年 4月	あけの星声の図書館、厚生省指定図書館となる
6月	市内八事霊園に施設関係者共同墓碑建立
昭和54年11月	重度身体障害者授産施設「明和寮」開設
昭和55年 4月	既存の身体障害者授産施設を「光和寮」と呼称 同時に、あけの星声の図書館を名古屋ライトハウス図書館と改称
昭和58年 8月	身体障害者授産施設「港ワークキャンパス」光和寮金属作業部より分離独立開所 身体障害者通所施設「黎明荘」を開設
平成 元年 5月	特別養護老人ホーム「瀬古第一マザー園」、養護盲老人ホーム「瀬古第二マザー園」、「瀬古マザー園デイサービスセンター」、ふれあいセンター「瀬古平成会館」開設
平成 3年 5月	図書館を移転「名古屋盲人情報文化センター」と改称
平成 6年 4月	「光和寮」を重度身体障害者授産施設に変更し、入居棟・作業棟新築
平成 7年 4月	身体障害者デイサービスセンター「クリエイト川名」、身体障害者福祉ホーム「かわな」新設
平成 8年10月	創立50周年を記念して新しいシンボルマークを設定
平成12年 4月	介護保険法施行に伴い「瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所」開設
平成13年11月	港区に法人本部事務局を開設
平成14年 7月	「港区障害者地域生活支援センター Kiraらぽーと」開設 名古屋ライトハウスにおいて、ISO9001(2000版)を認証取得
平成15年 4月	身体障害者居宅介護等事業「みなとガイドネット」開設
8月	高齢者通所介護事業所「矢田マザー園デイサービスセンター」開設
平成16年 6月	身体障害者居宅介護等事業「ガイドネット あいさぽーと」開設

平成18年 3月	光和寮「KAN 食品開発センター」開設 パンの缶詰「パンですよ！」販売開始
4月	法人本部事務局を光和寮へ移設
10月	創立60周年を迎え、記念誌の発行や記念式典、記念コンサートを開催 障害者自立支援法に伴い、身体障害者デイサービスセンター「クリエイト川名」が生活介護事業所「デイサービスセンタークリエイト川名」として新事業体系へ移行
平成19年 7月	地域活動支援センター「あちえっとほーむ」、児童デイサービス「わくわくキッズ」を開設
平成20年 1月	障害者自立支援法に伴い、光和寮・明和寮・港ワークキャンパスにおいて新事業体系へ移行 明和寮 就労移行支援事業・就労継続支援事業（B型）・生活介護を開設 光和寮 就労継続支援事業（B型）・就労移行支援事業を開設すると共に生活介護事業所「デイサービスセンタークリエイト川名」を統合 港ワークキャンパス 就労継続支援事業（A型）を開設
4月	明和寮入所部門の一部が福祉ホーム「あかり」として再編、黎明荘は通所ホームから福祉ホームとして再編され、それぞれ事業開始。港ワークキャンパス入所部門が福祉ホーム「みなと」に、KAN食品開発センターが港ワークキャンパス就労継続支援事業B型として再編され事業開始。これに伴い、港ワークキャンパスは障害者支援施設から多機能型事業所となった。
平成21年 4月	光和寮施設入所支援事業の一部を福祉ホーム「やすだ」として再編、光和寮生活介護を分化し、新たに地域活動支援センターを「デイサービスセンタークリエイト川名」の事業所名で開設
平成22年 1月	名古屋市中川区富永に新たな生活介護事業施設 戸田川グリーンヴィレッジ(仮称)の建設を開始